

東京都及び江戸川区の教育目標ならびに地域や生徒の実態をふまえ、人間尊重の精神を基盤に、心身ともに健康で、知性と感性及び主体性と創造性を養い、生涯にわたって学習する態度の育成とこれらの具現化を目指して本校の教育目標を以下のように設定した。

- ・すすんで学ぶ生徒
- ・心の豊かな生徒
- ・健康でたくましい生徒

この教育目標の下、具体的には

目指す生徒の姿

- 思いやりの気持ちと豊かな心を持ち、ルールを守る生徒
- 意欲的に学力向上に努力する生徒
- 積極的に体力向上に努力する生徒
- 物事に真摯に取り組み、誠実な生徒

目指す学校の姿

- 生徒・保護者・地域から信頼される学校
- 生徒一人一人の可能性を信じ、生徒の成長を第一とする学校
- 生徒自身の人生の基盤をつくることのできる学校
- 生徒が夢を持ち、生徒の輝く姿がいつも見られる学校

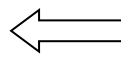
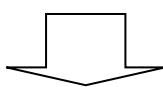
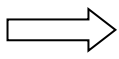
目指す教職員の姿

※仕事に厳しく 人に温かく 服務には厳正な 教職員集団

- 生徒の成長を第一とし、常に専門職としての資質・能力の向上に努める教職員
- 「子弟同行」を胸に刻み、胸を張って生徒指導に取り組める教職員
- 組織の一員として職責を十分理解し、互いに学び合い、高め合える教職員
- 前例踏襲にとらわれず、生徒第一義の教育活動を実践できる創造力豊かな教職員

生徒・保護者から選ばれる学校づくり

保護者・生徒の願い



地域の願い

魅力ある教育活動の実践

【教育目標の達成及び喫緊の教育課題の解決するための基本方針】

- 学校経営方針に基づき、法令を遵守し、倫理観、責任感、連帯感、使命感をもって教育活動を推進する。
- 教育基本法の本質、学習指導要領の内容を理解し、東京都の施策、江戸川区教育委員会の指導の重点を踏まえ、学校教育目標の具現化を目指す。
- 生徒の知的好奇心を喚起するために、教員各自が教材研究や授業研究等の自己研鑽に励み、生徒が自分の考えを自分の言葉で発表する場面を取り入れる等、魅力ある授業づくりに努める。
- 教育活動全体を通じて、道徳の時間を要とした道徳教育を推進し、差別、偏見、いじめの根絶を図るために、自己肯定感と他者への敬愛の念をもった心の豊かな生徒を育てる。
- 魅力ある学校行事を実施することにより、生徒の達成感・達成感を向上させ、保護者の方々の満足感を高揚させる。
- 生徒理解を基盤とした生活指導を、共通理解のもとに組織的に実践し、教員、生徒、保護者、地域の間に関係を築くことができるよう努める。
- 生徒が地域の一員としての自覚や誇りをもてるようにするために、近隣小学校や地域社会との連携を図るとともに、学校応援団や学校評議員等の地域人材を活用する。
- 食育（栄養）・体育（運動）・眠育（睡眠）における講演等を行い、生徒の生活習慣の改善を促し、学力向上・豊かな心の育成・体力の向上を目指す。
- 生徒会活動や部活動等を通じて、生徒の主体性、協働性を育む。また、ボランティア活動や地域行事への参加を通じて、社会貢献や奉仕の意義を理解させる。
- 特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育を組織的、計画的に推進する。
- 生徒が楽しいと思う魅力ある学校づくりを行い、不登校生徒ゼロを目指す。
- 読書活動を充実させ、生徒の感性と問題解決能力を育てる。

【特色ある教育活動】～ 『生徒・保護者から選ばれる学校』 魅力ある教育活動の実践 ～

(1) 各教科等

- 各教科においては、3年間を見通した適正な指導計画、評価計画を整備し、組織的な指導を実践する。
- 生徒が安心して学習に集中できる環境をつくるために、全教員の共通理解の下に授業規律の徹底と生徒に考えさせ発表する場面を取り入れた授業の実践と雰囲気づくりを行う。
- 教科指導等では、開始時に「学習のねらい」を明示することで、生徒の授業に対する参加意識を高めさせる。また、学習の振り返りを行うことで、生徒に達成感をもたせ、自身の学習課題を明確にさせ確かな学力を育成する。

- 生徒の学力向上のために、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善、電子黒板やタブレット等によるICTを活用した実践、未来に向けた課題解決に必要な資質や能力の育成について校内研修会の主題として設定し、全教員の指導力を高める。
- 指導内容の精選、授業形態等、学習の基礎・基本定着を図る。数学、英語では習熟度別授業を行い、生徒一人一人の学力向上を目指し、きめ細やかな指導を行う。
- 学習内容の基礎基本の定着のために、学校全体で朝学習の恒常的な実施、放課後および夏季休業中の補習教室の充実、定期テスト前のサタデープロジェクトを実施する。
- 国や都の学力調査、体力テスト等の結果から、本校の生徒の実態を明らかにし、その分析結果を基に指導計画を立案する。また、計画の進捗状況や実施授業時数を定期的に点検し、指導内容の効果を確認し、ねらいの達成を目指す。
- 生徒の体力向上を図るため、保健体育の授業を要とし、昼休みの校庭利用や運動部活動への積極的参加を促す。
- 道徳教育推進教師を中心に人権教育担当と連携し、生徒の実態や学校行事、人権教育計画に合わせた道徳教育全体計画を作成・実施し、道徳科の適正な評価を行う。また、様々な教育活動の中で道徳的実践力を高める。
- 日々の教育活動や学校行事の中に生徒主体の場面を多く設けることで、生徒の所属感、達成感、自己肯定感を育てるとともに、愛校心を高める。
- 集団生活の向上や身近な問題の発見や解決を目指した話し合い活動を、全ての教育活動の中に多く取り入れることにより、生徒の主体性と自治能力の向上を図る。
- 発達段階に応じた読書活動を提示する。また、読書活動の成果を掲示物やスピーチ等で発表する場を設け、まとめる力や表現し伝える力を育てる。
- 「奉仕、共生、挑戦」をキーワードに全教育活動を通じて、オリンピック・パラリンピック教育レガシー創造プランに基づき、オリンピック・パラリンピックに関する学習を行い、これらを通じて、スポーツへの関心を高めるとともに、共生社会の実現、異文化理解を体験、学習する。また、オリンピック・パラリンピックコーナーの内容の充実を推進する。

(2) 健全育成（生活指導・不登校対策）

- 生徒一人ひとりを大事にした指導を徹底し、生徒一人ひとりの心に寄り添う生活指導を行う。
- 生活習慣アンケートを定期的実施し、生活全般における自己管理能力の向上を図る。
- いじめに関するアンケート調査を定期的実施し、生徒の人権意識の育成、いじめの防止と早期発見早期対応に努める。必要に応じて、SSW、心理士等の関係諸機関と連携した支援を行う。
- スクールカウンセラーと第1学年生徒との全員面談を行い、不登校の未然防止に努めるとともに、保護者や関係諸機関と連携し、迅速かつ的確に対応できる継続的な支援体制を学校全体で整備する。
- 「松江二中SNSルール」について生徒会本部役員を中心に作成し、情報モラルの周知徹底とスマートフォンやゲームの利用方法や利用時間について考える場面を設定する。
- Q-Uテストを実施し、生徒の把握、授業改善、学級学年経営の充実に活用する。
- 生徒会活動を活性化させ、生徒の自主的・実践的な態度を育てる。

(3) キャリア教育（進路指導）

- 多種多様な進路への理解や望ましい職業観の育成を目指し、キャリアパスポートを活用し、3年間を見通しキャリア教育指導計画を作成する。
- 職場訪問、職場体験等の体験的な活動や講演等の取組の中で、地域の人材を活用する。
- 総合的な学習の時間をキャリア教育・教科横断的かつ探究的な学習の時間とし、発達段階に応じた課題を設定する。「調べ、体験、まとめ、発表、相互評価」を一連の流れとした問題解決的な学習に取組ませる。

(4) 特別支援教育（エンカレッジルームの活用）

- 特別支援教育コーディネーターを複数の教員に充て、養護教諭、スクールカウンセラーを含めた校内委員会を組織する。
- 特別な支援を要する生徒の状況や対応について共通理解し、巡回指導教員の助言の下、個別指導計画を作成する。また、合理的配慮に基づく必要な支援を組織的に行うための研修を行う。
- 特別支援教室専門員による個別の配慮や支援を必要とする生徒の支援のために、エンカレッジルームを積極的に活用する。

(5) 部活動

- 国・都・区の活動方針を遵守し、短時間で効果が上がる指導を研修し、全生徒が楽しく活動ができるように指導計画・運営をする。
- 生徒の人格を尊重し、自主的、自発的な参加による活動の中で、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資する場とする。

(6) 小中連携教育

- 小中連携コーディネーターを中心に小中連携を強化し、家庭学習の更なる定着を図る
- 年3回「小中連携教育の日」（教員の授業交流、小6児童と中1生徒の座談会、地域運動会における地域ぐるみの交流）を設定し、発達段階を踏まえた教育活動の実践と小学校から中学校への円滑な移行等を推進する。

(7) その他

- 学校関係者評価を年2回設定し、各分掌・担当で分析したものを全教職員で共有し、ホームページに掲載する。
- 学校だより・学年だよりをホームページに掲載し、学校活動や生徒の活動の様子を周知する。